

第 42 回 ECE プログラム委員会幹事会 議事録

1. 日時：平成 29 年 10 月 17 日（火曜日）15:00-17:00
2. 場所：森戸記念館（第 2 会議室）
3. 出席者：（アンダーラインで示す、なお以下敬称略）須藤亮（CPD 協議会会長&ECE 委員会委員長） 広崎膨太郎（前委員長、オブザーバ）、石原直（協議会副会長&ECE プログラム委員会委員）、秋永広幸、渡邊 誠（代理山脇寿様）、加藤穂慈、京谷美代子、田辺朗、松村正明、持田侑宏、 ゲスト服部武（エレキ塾長）、奥津良之（記録）

4. 配付資料

- 資料 42-1 第 41 回 ECE プログラム幹事会議事録（案）（H29/8/1）
- 資料 42-2 NIMS ECE プログラム状況報告書（H29/10/17）
- 資料 42-3 SICE ECE プログラム状況報告書（H29/10/17）
- 資料 42-4 産総研 ECE プログラム開発試行状況報告書（人材育成スクール第一回および第二回）「NEDO IoT 推進のための横断技術開発プロジェクト」（H29/9/25）
- 資料 42-5 エレキハード人材育成 ECE プログラム開発案に関する資料
- ①電子情報通信学会殿の CPD 活動に関するご提案
（広崎アドバイザー発信 H29/10/6）
 - ②NANOBIIC と 4 大学コンソーシアム見学私記（H29/9/13）

5. 委員長挨拶 今回から服部武先生（エレキ塾長）に会議にご参加いただける旨ご紹介があり、服部先生より自己ご紹介を戴いた。

6. 前回議事録（案）確認

資料 42-1 につき、これを承認した。

●武田委員から本務および SDGs 牽引活動その他多忙との理由で、委員交代の申し入れがあった旨幹事長より前回説明があったが、武田委員からは代わりの委員を派遣いただけないので 再度幹事長よりお願いをすることにした。（委員変更については次回 CPD 協議会に報告する。）

7. 各報告

（1）NIMS ECE 状況報告 資料 42-2 を用いて、物質・材料基礎 ECE プログラムの H29 年度実施状況について、全般的に実施状況は順調である旨渡邊委員（代理山脇寿さま）から報告があった。直近では 10 月 5 日「安価な材料と微細加工技術を組み合わせた赤外線デバイスの開発」（NIMS ウィーク）を実施した。講義 13 名、ゼミ 10 名。若い参加者が少ないことを改善すべく工夫したい。一層の広報手法を工夫したい。ご参考 [NIMS イブニングセミナー evening-seminar@nims.go.jp](mailto:evening-seminar@nims.go.jp)

既参加者の network のようなものができるとういのではないかと意見がでた。

引き続き E C E プログラム発展的に推進戴く様、委員長から激励の言葉があった

(2) SICE ECE 状況報告 資料 42-3 を用いて SICE 奥津委員より、プロセス新塾 2017 の実施状況につき口頭報告があった。

- 39 名が 塾生として研鑽生活を送っている。
- 10 月 6 日京都大学 楽友会館にて第 3 回スクーリングを開催した。
- 学会講演などの機会を捉え 当教育活動の広報を行っている。
- すでに来年度の企画会議が進んでいる。(2 月に F L Y E R 発行する予定)

(3) 産総研 IoT プログラム(開発中)は試行および準備は順調に推移の旨 奥津幹事長(秋永委員の代行発表)から資料 42-4 に関して報告があった。具体的には、

- HP を開設し 生徒場集が順調である。
- 2018 年 4 月に 2018 年度 新規 ECE プログラム申請を行う方向で 体制準備している。
- 昨年度+今年度試行にて一連の全プログラムが含まれることになり、受講生の中でもこの全プログラムを優秀に修了される可能性のある方がいる。その方への 年度を遡っての E C E 認定修了を与えるができるか、審議した。

→ECE プロプログラム委員会マターであるが前向きに検討進めることとした。

- 幹事会メンバーの講座・実習陪席は OK である。奮って陪席されたい。

引き続き E C E プログラム発展的に推進戴く様、新委員長から激励の言葉があった。

(5) エレキ・イノベーション人材 ECE プログラム Feasibility Study につき 資料 42-5 を参照して奥津から進捗状況の報告および服部塾長を中心に全員でディスカッションを実施。

●背景説明・・・エレキハード技術継承はどの企業も現場任せで、壊滅的。組織的に教育が行われていない。技術者は仕様書を作るだけの毎日で、技術水準が落ちている。事態は日に日に悪化し、一刻の猶予もない状態である。すぐさま SICE 塾手法を横展開・適用して開発を加速したい。と幹事会で認識している。

●電子情報通信学会 IEICE に幹事学会になって戴き進めたい。広崎アドバイザーから IEICE 篠原会長に提案書を発信戴いたので、次の段階として 奥津幹事長が IEICE に接触して IEICE 教育委員会委員長に F T F で説明を行うこととした。なお 教育委員会委員長は杉山一雄さま(元籍 NTT docomo) 事務局長は蓑毛正洋さまである。奥津より連絡することとした。

●石原プログラム委員から提案戴いただいた新川崎 NANOBIC 視察訪問を 9 月 11 日実施した。(窓口 **NANOBIC** 真期 彰さま 〒212-0032 川崎市幸区新川崎 7-7 かわさき新産業創造センター NANOBIC 事務室 携帯：080-6560-3060 <http://open-labo.skr.jp/>) エレキ分野に限らずあらゆる新研究に有効な実験作業設備であることの報告があった。

次回(第 42 回会合)は 2017 年 12 月 19 日(火) 15:00~17:00 を申し合わせて閉会とした。なお、次回は年末でもあり懇親会を実施する予定とした。

以上